



あ や め



文責：生徒指導主事 川崎幸司

中間テスト終了！ 学習の成果は？

中巨摩新人体育大会が終わった翌週は中間テストでした。テストは10月20日(金)・23日(月)に実施されました。特に1・2年生にとっては、中巨摩新人に向けての取り組み(部活動によっては県新人も)と、中間テストに向けての取り組みの同時進行で大変だったと思います。手応えのほどはどんなものだったのでしょうか？すでに各教科答案が返却されていることと思います。結果(点数)のみを気にすることなく、問題の解き方・考え方はもちろん、テストに向けての取り組み過程も含めての反省を行っておきたいものです。そして引き続き、**P(計画) D(実行) C(評価) A(改善)のサイクル**を習慣化しましょう。3年生は2回目の教達検が1週間後に迫っていますし、その先には1・2年生も含め期末テストが控えています。計画的に、また効率的に学習に取り組む意識をもちたいものです。

☆学校開放日<10/31火AM> 授業参観ありがとうございました

☆南アルプス市指定櫛形中公開授業も 10/31火PMに行われました

10月31日(火)に、午前中は学校開放日として保護者の方々に授業参観に来ていただきました。3学年では「入試説明会」も行われました。午後は南アルプス市指定公開授業研究会として櫛形中学校区内小学校・近隣小中学校の教職員に授業を観ていただきました。

保護者の方にはご多用中のところ、授業参観・入試説明会に足をお運びいただき感謝申し上げます。

午後は「授業におけるICTの活用」というサブテーマで、各学級ごと授業を設定しました。その後の研究会で出たアドバイスをもとに、さらに分かり易い授業を仕組めるように取り組んで参ります。

今号は、11月2日(木)に校正したものです。

県新人体育大会!しのぎを削る!

中巨摩新人体育大会が終わり、中間テストが済んだばかりではありますが、早いところでは県新人体育大会が始まっていて、すでに陸上部女子が総合優勝を果たし、県新人3連覇を果たしています。幸先良いスタートができ、この勢いに乗り、他の部活動も上位進出を目指し、取り組みを強化しています。

野球部は優勝した富士学苑に惜敗したものの、準優勝となり、来春の県選手権大会のシード権を獲得しました。また、男子卓球部はベスト8まで進出、関東大会まであと1セットと善戦しました。さらにソフトボール部は現在ベスト4、今週末の3連休で準決勝・決勝と駒を進めています。その3連休やさらに翌週にも初陣を控えている部も多くあり、今後も目が離せません。試合を残している部活動の活躍に期待しています。

「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」といったのは、野球の故野村監督。ここでの経験が、春夏へとつながります。各部とも課題を見つけることが、この大会の大きな目的の一つにもなると思います。上手くいったことをさらに伸ばすことができるようにするにはどうすべきか、一步届かなかったのはなぜか。それぞれ課題を見出せるよう、来年の選手権・総体に向けての第一歩である県新人体育大会を全力で頑張りましょう!

10/21, 22 県新人陸上の部より





10/28 県新人野球の部より

☆後期学級役員任命式・表彰式で 本校生徒達の頑張る姿を再確認できました

10月23日(月)には、後期学級役員任命式・表彰式も行われました。

任命式では、呼名に対する返事の声も大きくはっきりしていて、学級・学年のリーダーとしての活躍を期待せずにはられないものでした。

表彰式の中では【校長賞】も披露され、樋泉歩優さん(3年)と名取凜音さん(2年)が受賞しました。樋泉さんの思いのこもった絵本がリソースにも飾ってあるので、ぜひ手に取って見て下さい。

【校長賞】

今回新たに創設された、善行(社会的功績などによって本校の名誉向上に寄与したこと)で他団体から表彰を受けていないものに贈られる賞。

10/23 任命式・表彰式より



樋泉歩優さんより【絵本に込めた思い】

こちらの冊子をご存知の方もいるかもしれませんが、私と姉が作ったものです。この茶道の絵本についてお話しさせていただきます。

私は小学1年生から、姉は小学3年生から茶道を学んできました。その中で年に数回お茶会を開くのですが、多くの方が「癒やされる良い時間を過ごせた」「おいしかった」と言ってくださいます。特に外国の方を招いた時は、本当に目を輝かせて喜んでくださいました。私たちはそんな時がとても嬉しく、大好きな茶道をやっていたことに喜びを感じます。しかし、それと同時にあまり茶道が知られていないことを残念に思うこともありました。

外国の方や子ども達、多くの人達はこの日本特有の美しい文化、茶道に興味を持っていただき、愛してもらえたらと願って、私たちはこの冊子を作ることにしました。

内容ですが、日本人の姉妹が海外からホームステイしている男の子をお茶会に招くストーリーです。私達家族が、実際経験した出来事が基になっていて、茶道で使う道具や作法、お菓子などを英語と日本語で紹介しています。茶道には一つ一つの動きや形に決まりや意味があります。

私は絵を担当したのですが、文章では伝わりづらいお茶の道具の特徴や手の動きなどは、特に気をつけて描き、細かい部分まで丁寧に描きました。また、文章はお茶のことを知らない方も理解しやすい表現を心がけたり、外国の方や子ども達の読みやすさを考え、文章の分量を抑えたりして、簡潔にまとめることも意識しました。

茶道という日本文化を絵本の形にするには、間違いのない責任ある情報が求められます。茶道の先生方に何度も校正を入れていただきました。

大勢の方に読んでもらいたいと思っていましたので複数部作ることにしましたが、それにはとてもお金がかかると知り、驚きました。そこで国際交流活動に補助金を出してくれる団体に問い合わせたり、企業とやりとりをするなどして、ほぼ紙代だけで制作してもらえることとなりました。

企業など大人の方々とのやりとりや、本ができるまでに打ち合わせや推敲を何度も重ね、できあがるまでに1年かかりましたが、全てが社会勉強になりました。また一つのことを深く探求する楽しさも知りました。

制作、出版の期間を通して、印刷会社の皆さん、新聞社の方、校長先生など周りの大人の方々には私達のことも温かく導いてくれたり、応援してくださいました。多くの方に協力していただいて出来たことで、この感謝の気持ちは、いつまでも忘れないでいたいと思います。

今、外国人観光客はとても増えていて、観るだけの観光から体験型の観光が喜ばれるようになりました。

いつか英語説明付きお茶会を開催し、その中でガイドブックとして配れるといいと思っています。

外国の方に素晴らしい日本文化である茶道の魅力を伝え、日本の方にも絵本を手にとってもらい、敷居が高いと思われがちな茶道に親しみを覚えてもらえたら嬉しく思います。